

2 校内研修の観点

本校では、放課後15分間の毎日の振り返りを行い、日々の授業づくりに取り組みました。

児童生徒の「考える力」「やってみる力」「表現する力」「興味をもつ力」を引き出し、さらにステップアップすることを目指し取り組みました。

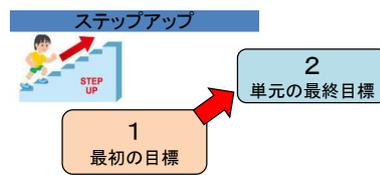
学部間の連携を図り、共通の観点と具体的なチェックシートなどを共有しながら、児童生徒の将来を見据え、共に話し合い、日々の研修を積み重ねました。

振り返りの4つの視点

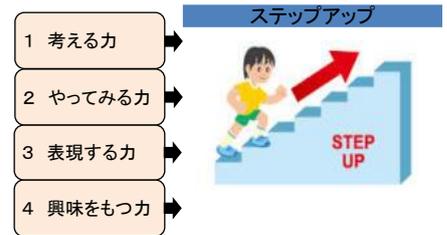
振り返りのサイクル



「学習グループの全体」の成長と評価
(スモールステップ)



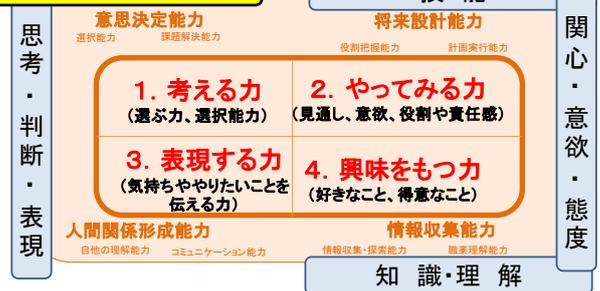
共通する4つの観点からの
個人の成長と評価



社会の一員としてたくましく、心豊かに生きる力

よく考えて自分から行動する力(分かる・できる)

将来に渡って必要な力



考える力



やってみる力

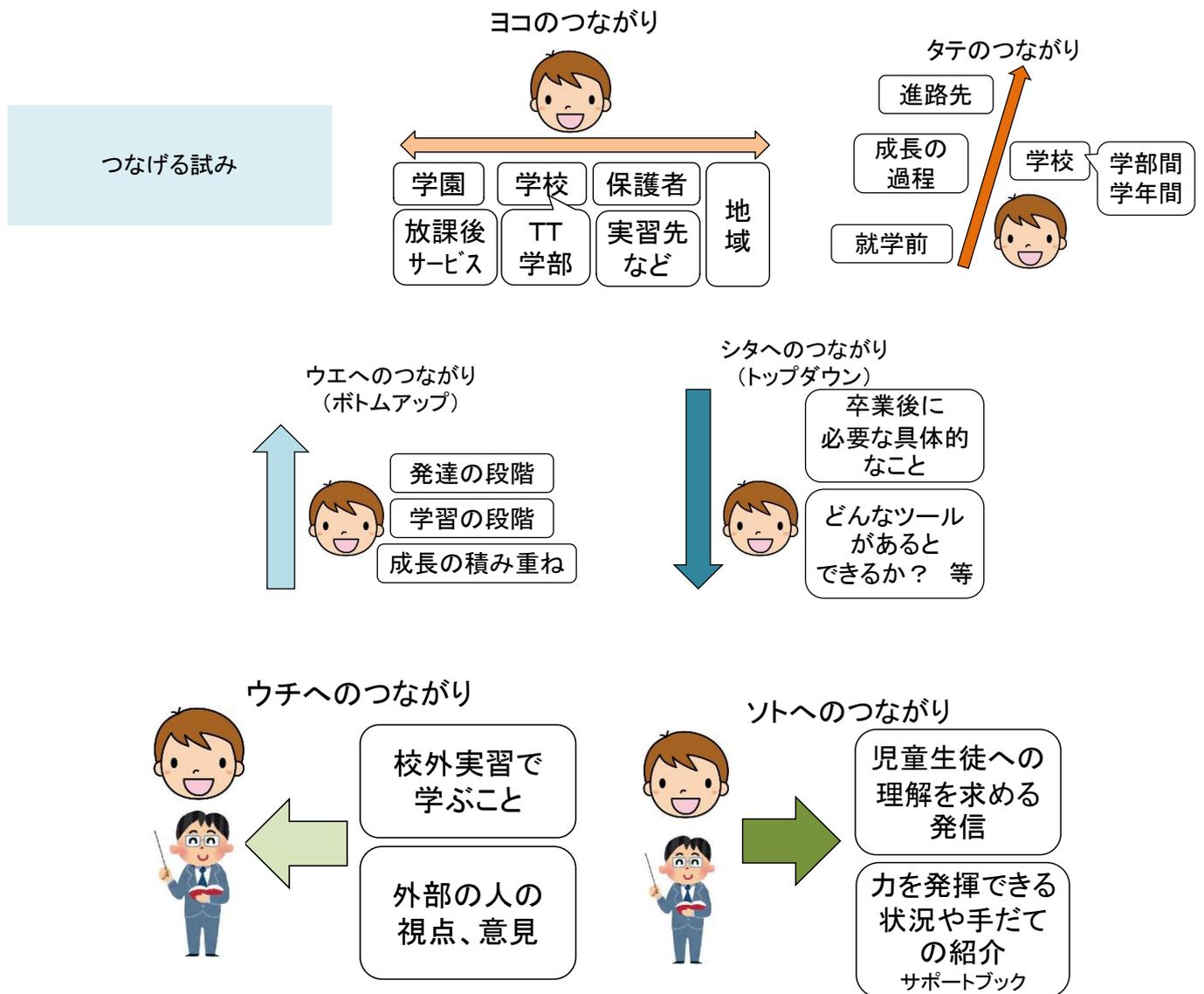


表現する力



興味をもつ力



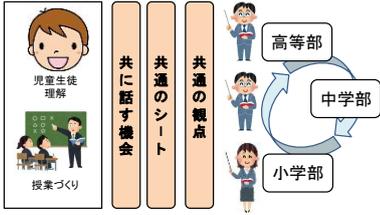


学校内外との連携や学習の系統性などを大切に日々の実践を進めたいと考えました。

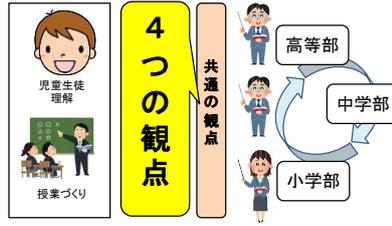
そこでどんな「つながり」があるかを確認したいと思います。例えば、保護者の皆さんや関係機関の方々、地域の方々などとの空間的な広がりをもつ「ヨコのつながり」があります。また、就学時や学年、学部が変わる移行期、卒業後の進路先とのつながりといった時間的な流れのある「タテのつながり」も大事です。そして、児童生徒の成長を考えた時に、少しずつ学習を積み重ねるボトムアップ的な「ウエへのつながり」と、卒業後や将来の生活を具体的に考えた時、この力は必要だとか、このような支援ツールがあれば良いといったトップダウン的な「シタへのつながり」の両方が大事です。さらに、例えば現場実習の際に校外で学んだり外部の人からのご意見を頂いたりといった校内への「ウチへのつながり」、そして障がい特性の理解や啓発、児童生徒の成長や校内での取り組みを発信する校外への「ソトへのつながり」もあります。これらの「つながり」をひとつひとつ大事にして教育実践に取り組むことが大事だと考えました。

また、学部間の系統性や連携を強めるために、「共通の観点」をもって、各種シートを作成し授業づくりと改善を進めました。また「共に話す」機会を大切にしていきます。そして、H29年度から本校舎に小学部、四倉校舎に中学部と高等部が分かれますが、「校舎が離れていても全職員が全児童生徒のことをよく理解している学校」を目指し、研修テーマを設定しました。

学部間の系統性・連携を強める工夫



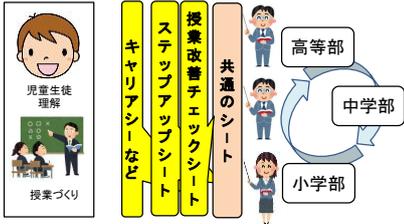
学部間の系統性・連携を強める工夫



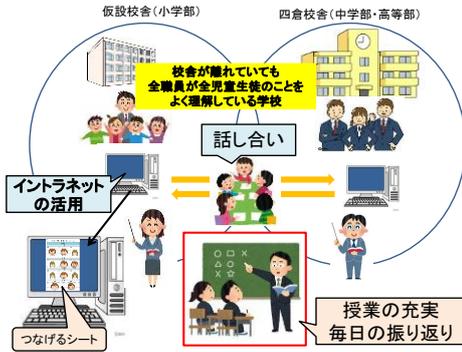
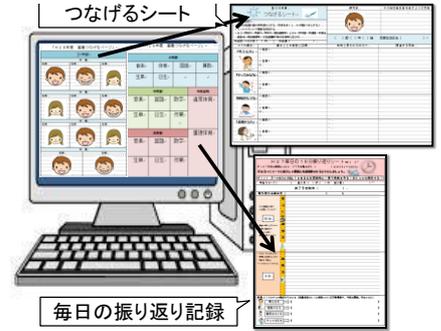
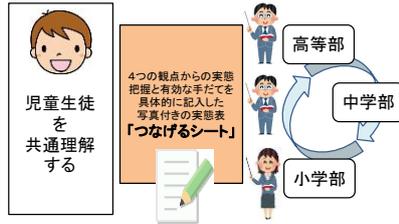
学部間の系統性・連携を強める工夫



学部間の系統性・連携を強める工夫



学部間の系統性・連携を強める工夫



校舎が離れていても
全職員が全児童生徒のことを
よく理解している学校



小学部
key word「自分でやる」

- 興味をもつ力
- やってみる力

目標:
学習の基本や「基本的な生活習慣」を身につける。

内容:
着替え、歯磨き、清掃、給食準備、挨拶、約束など

中学部
key word「目標をもつ」

- 考える力
- 表現する力

目標:
「将来」のために、自分で「目標」を立てて「表現力・コミュニケーション力」を身につける。

内容:
社会の仕組み、将来の夢、言葉遣い、コミュニケーション、チャレンジシートでの自己評価

高等部
key word「責任をもつ」

- 考える力
- やってみる力

目標:
「社会人」としての「マナー」を身につけ、よく考えて「自分の役割」を果たす。

内容:
時間、約束、仲間と思いやり、係活動、自己選択・自己評価、具体的な進路

H28校内研修テーマ

「考え、できる・表現する」力を育む
授業づくり
～「つなげる」体制づくりの工夫～